

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室2(タッチ)			
○保護者評価実施期間	2026年3月10日		～	2026年4月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2026年3月10日		～	2026年4月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との情報共有	スタッフによるアセスメントと児童の特性や得意・不得意など合わせた具体的な支援を実践できている。 また、その情報を保護者と共有し、安心感を得られていると考えられる。	少人数配置だが、日々の観察や療育の中で、気づいた変化や結果を保護者へ連絡・共有していく。
2	特性の把握と療育内容へのフィードバック・フィードフォワード	アセスメントの視点をさらに明確に標準化しやすいチェックシートを運用している。スタッフの観察眼と情報共有スキルにもつながっていると思われる	各々の児童の課題や問題点に対し、スタッフがそれぞれの専門視点や知見からアプローチを擦り合わせていく。
3	スタッフの助言やアドバイス	保育、言語、身体発達に長けたスタッフがいることで、未就学児から就学児までシームレスな療育が展開できる。保護者アンケートでも「専門的な助言がもらえる」とのお言葉を頂いた。	多職種連携によるケースカンファレンスの実施と落とし込みを重ねる。 各スタッフの思考プロセスをさらに高めていきたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	兄妹支援	どうしても、助言や支援は利用児を中心に向けられているものであり、保護者が抱える「きょうだい児との接し方の悩み」等のサポートは十分ではなかった。	兄妹に対する家庭での関わり方や声かけについて、アドバイスを強化していきたい。
2	地域交流の少なさ	子どもたちが地域社会と交わる機会が少ない	療育内容を優先しながら、地域との交流機会を模索していきたい。 ・子どもたちやスタッフが負担なければ、地域の人々と触れ合えるイベントも実施を検討していきたい。
3	避難訓練等の情報開示が少なかった	アンケートで指摘された避難、防災訓練情報の提供が多くなかった。	避難訓練などの「見える化」を進めていく。